



臨床研究に関する情報の公開

作成日:2019/02/26

研究課題名	ホルモン感受性転移性前立腺癌の治療実態に関する前向き観察研究
研究の対象	2014年5月1日から2018年3月31日の期間に京都大学医学部附属病院泌尿器科および共同研究機関で転移性前立腺癌と診断された、初診時に所属リンパ節以外のリンパ節転移、骨のほか臓器への転移を有する方。
研究目的・方法	転移性前立腺癌に対する標準的治療はホルモン治療ですが、近年、欧米では早期から抗癌剤や新規アンドロゲン受容体阻害薬（アビラテロン、エンザルタミド）を併用する治療が新たな標準治療となりつつあります。しかし、日本人の前立腺癌は欧米人の前立腺癌と比較してホルモン治療に対する感受性が良く、日本人においてホルモン治療に他剤を併用する集学的治療が必要な患者さんがどれほどいるかはまだ明らかになっていません。そこで、本邦において様々な治療方針で治療を受けている転移性前立腺癌の患者さんの予後について調べ、各治療の臨床経過を把握することを目的として本研究は計画されました。 研究期間：許可日～2025年3月
研究に用いる試料・情報の種類	性別、生年月、初診時年齢、診断日、治療開始日、Performance status、治療開始施設、診断時症状、診断時 Gleason score、血液検査（Hb、LDH、ALP、ALB、PSA）、転移部位および個数、治療内容（ホルモン療法、抗癌剤治療、その他）、併存疾患、治療期間、PSAの推移、最終観察日、転帰等
外部への試料・情報の提供	データセンターへのデータの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。対応表は、当院の研究責任者が保管・管理します。
研究組織	京都大学医学部附属病院、熊本大学医学部附属病院、筑波大学附属病院、宮崎大学医学部附属病院、関西医科大学附属病院、兵庫医科大学病院、倉敷中央病院、市立島田市民病院、関西電力病院、市立大津市民病院、済生会熊本病院、熊本中央病院、国立病院機構姫路医療センター、天理よろず相談所病院、国立病院機構熊本医療センター、田附興風会医学研究所北野病院、滋賀県立総合病院、日本赤十字社和歌山医療センター、社会福祉法人京都桂病院、静岡県立総合病院、神戸市立医療センター中央市民病院、大津赤十字病院、西神戸医療センター、医仁会武田総合病院、洛和会音羽病院、大阪赤十字病院、国立病院機構京都医療センター、京都市立病院、浜松労災病院
お問い合わせ先	本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。 ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。 また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。 照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先： 〒530-8480 大阪市北区扇町 2-4-20 公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院 泌尿器科 池内亮介（イケウチ リョウスケ） TEL / 06-6312-1221（代）



研究責任者：

公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院 泌尿器科 主任部長 岡田卓也

研究代表者：

京都大学大学院医学系研究科泌尿器科学講座 小川修